

第 37 回全日本少年サッカー大会富山県大会  
兼  
第 44 回KNB杯富山県学童クラブサッカー大会  
実施要項

1. 趣旨
 

日本の将来を担う子どもたちのサッカーへの興味・関心を深め、サッカーの技術・理解を向上させると同時に、サッカーを通じて心身を鍛え、リスペクトの精神を養い、クリエイティブでたくましい人間の育成を目指し、その研修の場として本大会を開催する。将来に向けて大きく成長するための準備として、この年代にふさわしいゲーム環境を提供することにより、育成年代で年代に応じた豊かな経験を積み重ねる中で自ら成長していくことができるようサポートする。子どもたちや周囲の大人が、サッカー、スポーツの素晴らしさに触れ、生涯にわたって楽しみ、関わっていけるよう、文化として醸成していくことを目指す。
2. 名称
 

第 37 回全日本少年サッカー富山県大会 兼  
第 44 回KNB杯富山県学童クラブサッカー大会
3. 主催
 

公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団  
読売新聞社、北日本放送
4. 主管
 

公益社団法人富山県サッカー協会、富山サッカー友の会
5. 後援
 

日本テレビ放送網、報知新聞社
6. 特別協賛
 

北陸コカ・コーラ、YKK、花王
7. 協賛
 

日清オイリオグループ、日本マクドナルド、ゼビオ、ゆうちょ銀行
8. 期日
 

2013 年 5 月 11 日(土)～6 月 23 日(日)  
開会式・抽選会:2013 年 4 月 21 日(日)、閉会式:2013 年 6 月 23 日(日)
9. 会場
 

<p>予選リーグ、決勝トーナメント1・2回戦 決勝トーナメント3回戦・準決勝 決勝</p>	<p>富山市殿様林緑地グラウンド 富山県総合運動公園 芝生スポーツ広場 富山県総合運動公園 陸上競技場</p>
---	---
10. 参加資格
  - (1)「参加チーム」は、大会実施年度に(公財)日本サッカー協会第 4 種及び女子に加盟登録したチーム(以下「加盟チーム」)であること
  - (2) 上記「参加チーム」の構成は、単一「加盟チーム」に限られ、その「加盟チーム」は年間を通じて継続的に活動していること。
  - (3)「参加選手」は、上記「加盟チーム」に所属する選手であること。また、女子加盟登録チームに所属する選手は、第 4 種年代の選手であること。
  - (4) 都道府県大会から決勝大会に至るまでに、同一「参加選手」が異なる「加盟チーム」への移籍後、再び参加することはできない。
  - (5) 第 4 種年代の女子選手については(「クラブ申請」を承認された)同一「クラブ」内のほ

かのチームから選手を参加させることも可能にする。但し、都道府県大会から決勝大会に至るまでに、同一「参加選手」が異なる「加盟登録チーム」で再び参加することはできない。

- (6) 参加選手は、日本サッカー協会の発行した「加盟チーム」の選手証(写真貼付されたもの)を持参すること。(決勝トーナメント1回戦から)
- (7) 引率指導者は「参加チーム」を掌握指導する責任ある指導者であること。また、内1名以上が本協会公認コーチ資格(D級コーチ以上)を有すること。
- (8) 「参加選手」は健康であり、且つ保護者の同意を得ること。
- (9) 「参加チーム」は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険)に加入していること。

#### 11. 参加チーム及びその数

- (1) 2013年度登録済のチームで、参加可否はがきを提出したチーム。
- (2) 「参加チーム」の構成は、選手20名以内、引率指導者6名以内とする。
- (3) 単一「加盟チーム」で複数チームの出場を認める。ただし、大会規則で定める最高学年の選手が8名以上いること。また、指導者及び帯同審判員は単一「加盟チーム」内の複数チームの兼務は認めない。

#### 12. 大会形式

- (1) 参加チームを16グループに分け、予選リーグ(1グループ5もしくは6チームのリーグ戦)を行う。
- (2) 予選リーグ上位2チーム、計32チームは決勝トーナメントへ進出する。
- (3) 予選リーグにおける順位の設定方法は、勝利3点、引分1点、敗戦0点の勝点により、勝点の多い順に決定する。なお、勝点の合計が同一の場合は、以下の項目に従い順位を決定する。
  - ① 全試合の得失点差(総得点-総失点)
  - ② 全試合の総得点
  - ③ 当該チーム同士の対戦成績(勝敗)
  - ④ ①~③の全項目において同一の場合は、ペナルティーマークからのキックにより勝者を決定する。

#### 13. 競技規則

日本サッカー協会「8人制サッカー競技規則」による。

#### 14. 競技のフィールド

- (1) フィールドの表面は、天然芝とする。
- (2) フィールドの長さ(タッチライン)は68m、幅(ゴールライン)は50mとする。
- (3) ペナルティエリア等：

ペナルティエリア	12m
ペナルティーマーク	8m
ペナルティアーケの半径	7m
ゴールエリア	4m
センターサークルの半径	7m
- (4) ゴールポストの間隔は5m、クロスバーのグラウンドからの高さは、2.15mとする。  
※ゴールは、競技者が負傷しないように安全に設置しなければならない
- (5) 交代ゾーン： 自由な選手交代のため、ベンチ側のタッチラインのハーフウェーに6mの交代ゾーンを設ける(ハーフウェーラインを挟んで3mずつ)

15. 試合球 アディダス製 タンゴ 12 キッズ(少年用 4 号球)を使用する。

16. 競技者の数および交代

- (1) 1 チーム 8 人の競技者によって行われる。チームの競技者のうち 1 人はゴールキーパーとする。  
本大会においては、8 人に満たない場合は試合を開始しない。試合中に怪我等による人数不足により 8 人に満たなくなった場合には、そのまま続行する。
- (2) 登録できる交代要員および交代の最大人数は 8 名とし、交代して退いた競技者は交代要員となり再び出場することができる。交代の回数は制限されない。
- (3) 交代の手続き：
  - ①交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。
  - ②交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。
  - ③交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。  
注)ただし、交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上でどこからフィールドを離れてもよい。
  - ④交代について、主審、補助審判の承認を得る必要はない。
- (4)ゴールキーパーは、事前に主審に通知した上で、試合の停止中に入れ替わることができる。

17. 競技者の用具

- (1) 競技者の用具については、日本サッカー協会「サッカー競技規則」およびユニフォーム規程に従うものとする。
- (2) 選手番号については、「参加選手」ごとに大会に登録されたものを使用する。

**サッカー競技規則からの抜粋**

第 4 条 競技者の用具

**基本的な用具**

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものであり、それぞれに個別のものである。

- 袖のあるジャージーまたはシャツ-----アンダーシャツを着用する場合、その袖の色はジャージーまたはシャツの袖の主たる色と同じでなければならない。(注:ピブスによる対応は認められない。)
- ショーツ-----アンダーショーツを着用する場合、その色はショーツの主たる色と同じでなければならない。
- スッキング
- すね当て
- 靴

**色**

- 両チームは、お互いに、また主審や副審と区別できる色の服装を着用しなければならない。

- それぞれのゴールキーパーは、他の競技者、主審、副審と区別できる色の服装を着用しなければならない。

注：「服装」とは、シャツ、ショーツ、ストッキング、靴の全体のことであり、同じチーム内でフィールドプレイヤーとゴールキーパーが、同色のショーツ、ストッキングを着用することは原則として認められる。

#### **ユニフォーム規程からの抜粋**

##### 第6条 ユニフォームへの表示

ユニフォームにはチーム名・選手番号を必ず表示するものとする。(略)

##### ②選手番号

(1) 選手番号は、服地と明確に区別し得る色彩(服地が縞柄の場合には台地を付ける)であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。

(2) 選手番号を付する場所およびサイズは、次の通りとする。

シャツ背中 高さ 25cm-35cm

シャツ前面 右側、左側または中央に、高さ 10cm-15cm

ショーツに選手番号を表示する場合は、前面の右側または左側に、高さ 10cm-15cm

(3) 番号は整数の1から99を使用し、0は認めない。(略)

注：ゴールキーパーの負傷退場等により、緊急避難的にフィールドプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合については、その競技者の番号等の表示を義務付けるものではない。

#### 18. テクニカルエリア

- (1) テクニカルエリア(ベンチ)に入ることができる人数は、交代要員 8 名、引率指導者 3 名とする。
- (2) その都度ただ 1 人の引率指導者のみが戦略的指示を伝えることができる。

#### 19. 審判員 予選リーグの試合において1人の主審と2人の副審を割り当てる。

決勝トーナメント1回戦、2回戦は主審を大会本部にて指名する。3回戦以降は全ての審判員を大会本部にて指名する。

#### 20. 試合時間 (1) 試合時間は前、後半とも 20 分間とし、ハーフタイムのインターバル(前半終了の笛から後半開始まで)は 10 分とする。

- (2) 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合、予選リーグは引き分けとする。決勝トーナメント 1 回戦から 3 回戦まではペナルティーマークからのキックにより勝者となるチームを決定する。準決勝および決勝は、前、後半 5 分ずつの延長戦を行い、なお決しない場合はペナルティーマークからのキックにより勝者となるチームを決定する。なお、延長戦に入る前のインターバルは 5 分、ペナルティーマークからのキックに入るまでのインターバルは 1 分とする。尚、3 位決定戦は行わない。

### 8人制サッカールールからの抜粋

#### ● 延長戦およびPK方式

- ② PK方式において、両チーム3人ずつの競技者がキックを行ったのち、両チームの得点と同じ場合は、同数のキックで一方のチームが他方より多く得点するまで交互に順序を変えることなくキックは続けられる。

### サッカー競技規則からの抜粋

試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定する方法

- ・ ペナルティーマークからのキックの進行中に、ゴールキーパーが負傷してゴールキーパーとしてのプレーが続けられなくなったとき、(略)氏名を届けられている交代要員と交代することができる。
- ・ 上記の例外を除いて、延長戦のある場合はそれを含めて、試合終了時にフィールドにいた競技者にのみペナルティーマークからのキックを行う資格が与えられる。
- ・ 資格のある競技者は、ペナルティーマークからのキックの進行中に、いつでもゴールキーパーと入れ替わることができる。
- ・ 試合が終了し、ペナルティーマークからのキックを行う前に、一方のチームの競技者が相手チームより多い場合、競技者の多いチームは相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らさなければならない。チームの主将は、除外するそれぞれの競技者の氏名と、背番号を主審に通知しなければならない。これによって、除外された競技者はペナルティーマークからのキックに参加することはできない。

## 21. 警告・退場

- (1) 競技者が退場を命じられた場合は、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充することができる。主審は競技者が補充されようとしている間は、試合を停止する。
- (2) 本大会において退場を命じられた競技者は、本大会の次の1試合に出場できず、それ以降の処置については本大会規律・フェアプレー委員会で決定する。
- (3) 本大会の異なる試合において警告を2回受けた競技者は、本大会の次の1試合に出場できない。予選リーグの終了時点で、累積の警告は消滅するものとする。
- (4) 本大会の規律・フェアプレー委員会の委員長は、大会実行委員長が務める。委員については運営委員、審判委員から一人ずつ委員長が任命する。

## 22. 参加申込

- (1) 参加申込できる最大人数は、選手20名、引率指導者6名とする。
- (2) 「参加チーム」は、参加申込書に必要事項を記入の上、2013年4月20日(土)17:00までに富山サッカー友の会事務局にメールにて送付し、2013年4月21日(日)に行う抽選会に代表者の捺印をしたものを1部提出すること。
- (3) いかなる理由があっても参加選手の変更は認めない。また参加選手数の追加は認められない。

## 23. 参加料

単一「加盟チーム」から複数チーム参加する場合は2チーム目以降、参加費として10,000円を徴収する。

## 24. 組合せ

2013年4月21日(日)の開会式・抽選会にて決定する。抽選は参加チーム主将による抽選とする。

25. 表彰
- (1) 優勝チームには、日本サッカー協会から表彰状、富山県サッカー協会から表彰状、富山サッカー友の会から優勝楯、読売新聞社から優勝カップ、北日本放送から表彰状、優勝カップ、優勝旗、メダル、富山県総合運動公園より置県 130 年・富山県総合運動公園 20 周年記念メダルを授与する。
  - (2) 準優勝チームには、富山県サッカー協会から表彰状、読売新聞社から準優勝カップ、北日本放送から表彰状、メダル、富山県総合運動公園より置県 130 年・富山県総合運動公園 20 周年記念メダルを授与する。
  - (3) 第 3 位チームには(2 チーム表彰)
    - ①富山県サッカー協会から表彰状、協賛社からトロフィー、富山県総合運動公園より置県 130 年・富山県総合運動公園 20 周年記念メダルを授与する。
    - ②富山県サッカー協会から表彰状、協賛社からトロフィー、富山県総合運動公園より置県 130 年・富山県総合運動公園 20 周年記念メダルを授与する。
  - (4)グッドマナー賞を決勝トーナメントベスト8の中から大会本部にて選考し、協賛社からトロフィーを授与する。
  - (5) その他、参加全チームに参加賞を協賛社から授与する。
- ※優勝チームは「第 37 回全日本少年サッカー大会決勝大会」、「第 12 回北信越 U-12 少年サッカー大会」、「第 23 回北電カップ富山県学童サッカー大会」、「第 33 回立山杯北日本招待少年サッカー大会」の出場権、準優勝チームには「第 35 回中部日本招待少年サッカー大会」の出場権を得る。
26. 経費 大会にかかる経費は、主催者、主管協会が負担するが会場に至る往復の交通費及びその他大会参加に必要な経費は参加チーム及び参加者の負担とする。
27. その他
- (1) 試合中に発生した負傷、疾病は大会本部にて応急手当はするが、その後の治療に関しては各チームのスポーツ傷害保険等にて対応すること。
  - (2) 取り替え式ポイントシューズの使用を禁ずる。
  - (3) 試合時間40分前に、大会本部へ当日メンバー表を2部提出、ユニフォーム(FP・GK)各正・副一式(シャツ・ショーツ・ストッキング)を提示し、試合日程の左側をホームチームとし、着用する  
ユニフォームは主審が決定する。なお、メンバー表は富山サッカー友の会のホームページからダウンロードした公式戦メンバー表を使用のこと。
  - (4) 特別の場合を除き、雨天決行とする。
  - (5) 途中棄権チームが出た場合、予選リーグ戦については、当該チームの対戦記録を抹消する。ただし、決勝トーナメント戦においては、特別な事情のない限り棄権を認めない。
  - (6) インフルエンザ等で学校閉鎖・学級閉鎖がある場合、大会当日の棄権を認めます。また、指導者・父兄で試合当日の朝、選手の健康観察などを行い発熱・咳などの風邪の症状や体調不良の選手の出場を見合わせる措置を励行してください。
  - (7) 安全上、選手の眼鏡使用は禁止するが、スポーツ眼鏡については主審の許可を得ること。
  - (8) 車は絶対に道路に駐車せず、必ず駐車場に入れること。
  - (9) シードチーム(大久保少年サッカークラブ、アルチ富山、水橋FC、小杉少年サッカークラブ)